

(別紙 15)

山形県におけるクマ類出没防止対策の実施に係る計画/評価報告
(出没防止対策事業) ①

1 事業実施地域周辺の現状の出没・被害状況、出没防止対策の実施状況及び課題等

	R3	R4	R5	R6	R7
目撃件数	291	376	765	348	3,079
人身被害人数	0	2	5	3	13

令和7年は目撃件数、人身被害ともに大幅に増加した。クマが指定管理鳥獣となった令和6年度から、環境整備等の出没防止対策を行っているなかでの大幅増加となっており、さらなる出没防止対策が必要となっている。

なかでも河川を通して市街地に出没するケースが増加しており、河川での環境整備により出没を抑制する必要がある。

2 出没防止対策の具体的な内容

実施時期	令和7年9月～令和7年12月
場所	県内全域における県管理河川
目的・目標	市街地への出没防止
内容	緩衝帯整備
方法	藪の刈払い、立木伐採
評価方法	市街地出没件数
事業費とその算出方法	64,000,000円
備考	

注1：事業前の計画では各項目について想定又は期待される内容を、事業終了後の評価報告では各項目に関する実績や結果を具体的に記入すること。出没防止対策が複数ある場合は、対策の種類毎に各項目を記載すること。

注2：実施主体が市町村の場合、各市町村の実施する具体的な内容を記述すること。

注3：誘引物の除去及び緩衝帯の整備を実施する場合は、過去の本交付金の活用状況について備考欄に記載すること

3 実施した出没防止対策の評価（事業終了後の評価報告時のみ）

河川管理者と調整のうえ、市街地出没件数が増加する秋期間に地元要望や、クマの出没した地区を中心に実施。緩衝帯整備以降は一部で市街地出没に対する効果が見ら

れ、一方で効果が見られない地区もあることから、周辺環境等の要因について検証が必要である。

注1：当初予定されていたとおり事業が適切に実施されたか記載すること。

注2：事業実施地域ごとに、事業実施前後の被害指標（出没件数、被害件数、被害感等）を比較し、事業実施の効果が事業実施地域に現れているか評価すること（定量的な指標が難しければ、客観性を確保した定性的な指標を使用する。）。なお、事業効果の比較は同じ季節に行うことが望ましく、当該年度内での事業実施後の効果の確認が難しい場合は、次年度の実施とする旨記載すること。

注3：注1による効果検証を踏まえ、事業の設計（事業の質や内容）の妥当性や、事業の実施方法の適切性を評価し、課題と改善の方向性を記載すること。

4 その他

注1：出没防止対策の実施に当たって、特記すべき事項があれば記入すること。

注2：事業終了後の評価報告において、特記事項に対するコメントがあれば記入すること。